



オアシス

文責：副学長
桑原雅次

出雲芸術アカデミーだより 2018年9月14日発行 第5号

暑かった夏も過ぎ、過ごしやすい時期となりました。異常気象は相変わらず続き、台風の襲来や地震が目白押しですが、音楽院として講座を開講している本アカデミーでも、子どもの安全について危機管理の徹底を今一度考えておく必要性を感じます。そこで、本アカデミーでも緊急連絡網の整備について、「マメール」の導入をすることになりました。年度途中ですが、想定外の異常気象が発生しやすい現状ですので、お子様の安全を第一に考え、お忙しいことと思いますが、音楽院の皆様には加入手続きを早急をお願いしているところです。

◎ 本科「オーケストラコース」の紹介をします！

このコースは、初心者のための講座として「弦楽器入門」講座と、経験者のための講座として「オーケストラ」講座があります。

◆「**弦楽器入門**」～弦楽器の種類は、バイオリン、ビオラ、チェロ、コントラバスと4種類あります。それぞれの楽器ごとに専門の講師がマンツーマンで基本的な技術や心構えなどが学べるコースです。ここで身に着いた技術は、習熟度に応じてオーケストラ講座へ進み、入門合奏でさらに技術等を磨きます。

◆「**オーケストラ**」～【ストリングアンサンブル】は、弦楽合奏体として、平易な曲をとおしてボーイング（弓の弾き方）を合わせる技術を学び、基礎合奏の能力を身に付けていきます。【シンフォニーオーケストラ】は、弦楽器、管楽器、打楽器のフル編成で管弦楽曲の多様な奏法を身に付け、指揮者の高度な音楽性を感じながら、オーケストラの一員として本番の舞台を経験することも出来ます。管打楽器は初級・入門グレードを設け、基本的な技術と心構えを経験者と共に学んでいます。発表の場として『出雲フィルハーモニー交響楽団 <通称：iphil>』コンサートと『出雲 Jr.フィル』プロムナードコンサートがあります。iphilは、本音楽院講師の皆さんと一般の経験者から募集したメンバーに、演奏技術の高い本音楽院の受講生の皆さんも参加して編成される交響楽団です。Jr.フィルは、本アカデミー受講生の皆さんが中心となり、パート欠員を補う形で講師の皆さんにお手伝いいただき、編成される交響楽団です。また、合唱講座の皆さんと合同で発表する機会となっています。

■ 出雲フィルハーモニー交響楽団コンサート

日時：2018年10月14日(日)14:00開演

会場：出雲市民会館

曲目：ショスタコーヴィチ作曲「祝典序曲」

モーツァルト作曲「クラリネット協奏曲」

チャイコフスキー作曲「交響曲第4番」



入門バイオリン



入門チェロ



ストリングアンサンブル



シンフォニーオーケストラ

■ Jr.フィルプロムナードコンサート

日時：2018年11月11日(日)14:00開演

会場：大社文化プレイスうらら館

ジュニアコーラス：シューベルト作曲「嵐の中の神」、グノー作曲「ミサ・プレヴィス第7番」、林望作詞/上田真樹作曲「合唱組曲 あめつちのうた」

ジュニアオーケストラ：モーツァルト作曲「交響曲第25番 1楽章」、グノー作曲「歌劇 ファウストからパレエ音楽」、ベルリオーズ作曲「ラコッツィ行進曲」

◎ ワンダフル世代の活躍から学べること！

今、日本では20代の若者が頑張っている姿を総称して『ワンダフル世代』と表現されています。ワンダフル世代とは、1994年生まれのスポーツ黄金時代を指す言葉です。この語源は、94年生まれの干支は戌年なのでワンとかけたのが理由と聞きました。主な活躍選手は、“大谷翔平”選手（野球）、“奥原希望”選手（バドミントン）、“桃田賢斗”選手（バドミントン）、“瀬戸大也”選手（水泳）、“萩野公介”選手（水泳）、“羽生結弦”選手（フィギュアスケート）、“高木美帆”選手（スピードスケート）、“ベイカー茉秋”選手（柔道：命名者）等が挙げられます。94年に限定せず年代を広げると、多くの若者が各分野で活躍しています。なぜ、ワンダフル世代を紹介したのかといえば、今活躍している若者たちは「ゆとり教育」で育った人達です。現在の教育現場は「脱！ゆとり教育」です。ゆとり教育が始まって程なく、国際学力調査による学力低下問題が浮上し、慌てた当時の文科省大臣が方向転換のかじを切ったのです。ゆとり教育の検証すらせずです…。「教育は百年の計」ということわざがあるように、成果が出るのには20年、30年、場合によっては半世紀以上かかるものです。ゆとり教育の本筋は、「自ら学び主体的に考える」ことです。型にはまった教育からの脱皮で、教育内容を減らし主体的に学ばせるゆとりをもたせた教育といえるものでした。教える内容を減らしたところに学力調査をすれば、成績が下がるのは当然のことですが、あまりにも急いで転換したことに教育現場が混乱したことを思い出します。先に紹介した活躍する選手の姿を見てみると、「ゆとり教育世代」の若者たちが総じて学んでいないのかというと、決してそのようなことはないことがよく分かります…。

現在、音楽院で学ぶ皆さんは「ゆとり教育世代」ではないのですが、何事もゆとりのある環境や施設で学べることはとても幸せなことと思います。世間一般では「ゆとり」といえば過去の汚点的存在として扱われがちですが、ゆとりのない生活は窮屈でなりません…。特に芸術分野は、才能を開花させるためには技術の習得だけでなく、物事を敏感に感じ取る繊細な心を必要とします。普段からいい音楽に触れ、いい景色を眺め、四季を感じ、人を好きになることが音楽づくりには欠かせないことと思います。自ら学ぶ意欲と芸術にふれる喜びを感じ取り、日々を楽しく過ごしてほしいと願っています。



つぶやき 9月に入ってから出雲市内の小中学校延50校を訪問しました。訪問目的は、「iPhil（出フィル）」コンサート並びに「Jr.フィル」プロムナードコンサートの案内と本アカデミー音楽院の学校説明です。

途中、島根半島の海岸線を通りかかった際、なんと美しい景色に思わず車を停めてしばし鑑賞！大海原の壮大さに圧倒されると共に、人間がなすすべての事は何とちっぽけなことかため息さえも出る始末…。眼下の漁港には、メルヘンの世界が広がり思わずシャッターを切っていました。



<美しい漁港風景>

【このたよりは、本アカデミーホームページでも掲載します <http://izumo-zaidan.jp/tag/academy/>】

